

第1回 移動等円滑化評価会議北陸信越分科会（新潟県新潟市）

（「第1回 バリアフリー北陸信越ブロック地域連絡会議」と同時開催）

- 日時： 令和元年6月27日（木） 13:15 ~ 15:30
- 場所： 駅南貸会議室KENTO（新潟県新潟市）
- 議題： （1）新委員等について
- ・移動等円滑化評価会議の設置について
 - ・バリアフリー北陸信越ブロック地域連絡会議設置要綱の改正について
 - ・新委員について
- （2）バリアフリー法の改正について
- ・基本構想の作成状況について
 - ・バリアフリー法第14条に基づく条例制定の状況について
- （3）バリアフリー施策の取組み状況について
- ・旅客施設等のバリアフリー化の現状について
 - ・障害者団体等と交通事業者との意見交換会の取組みについて
 - ・バリアフリー教室等開催状況について
 - ・公共交通事業者等の接遇向上に向けた取組みについて
- （4）「心のバリアフリー」及びバリアフリー旅客施設・車両の好事例について
- ・バリアフリーアドバイザーからの助言・意見交換



委員： NPO法人まちづくり学校理事	中村美香	新潟県立大学名誉教授	島崎敬子
社会福祉法人新潟県社会福祉協議会地域福祉課長	中原敦子	長野工業高等専門学校電子情報工学科教授	藤澤義範
富山大学都市デザイン学部都市・交通デザイン学科准教授	猪井博登	富山国際学園富山短期大学幼児教育学科講師	明柴聰史
NPO法人スペースBe理事長	山崎勉	NPO法人ヒューマンネットながの理事	川崎昭仁
（一社）富山県手をつなぐ育成会理事	細川瑞子	石川県リハビリテーションセンター主幹	寺田佳世
社会福祉法人石川県視覚障害者協会理事長	米島芳文	（一社）新潟県聴覚障害者協会会長	石川渉
新潟県精神障害者団体連合会代表代理	本田美恵子	（一財）新潟県老人クラブ連合会会長	光村利寛
NPO法人D-SHIP S32理事長〔日本電気株式会社東京オリンピック・パラリンピック推進本部障がい攻略エキスパート〕			上原大祐

東日本旅客鉄道株式会社新潟支社総務部企画室室長	西日本旅客鉄道株式会社金沢支社企画課課長	北陸信越鉄道協会専務理事
北陸信越旅客船協会常務理事	北陸信越バス協会専務理事	北陸信越地区タクシー協議会専務理事
新潟空港ビルディング株式会社常務取締役総務部長		

新潟県交通政策局交通政策課長	長野県企画振興部交通政策課長
富山県観光・交通振興局総合交通政策室次長兼地域交通・新幹線政策課長	石川県企画振興部新幹線・交通対策監室交通政策課長
新潟市都市政策部都市交通政策課長	
北陸地方整備局企画部広域計画課長	北陸信越運輸局交通政策部消費者行政・情報課長

【発言要旨】

- お手伝いしてもらうから「すみません」、という「すみません」をどれだけ減らせるかが今重要だと思うので、皆さんと議論していきたい。
- 「心のバリアフリー」は健常者と障害者の両方向から必要だと思う。障害者を持った人たちにも向けた「心のバリアフリー」を届けていくことが必要。
- 北陸信越管内では基本構想を作成してから10年以上経過しているものがあり、その間に状況が変わっているのもう一回考え直さないといけないところがある。
- 内方線ブロックやUDタクシーなどいろいろなものが出てきてる中で統計の項目が古いのではないか。新たな指標を入れることを検討して欲しい。
- 車いすや電動車いすを利用されている方がタクシーを利用しようとすると、乗れるタクシーを調べないといけない。国でデータを持っておくべきではないか。当事者が福祉車両を購入する場合には、カタログだけでは分からないスロープの幅や入口の高さと車に入ってから天井の高さなどを確認しないとけない。
- 最近知的障害のある人も軽度の人たちは自分たちだけで行動するようになってきている。出かける時は公共交通機関を利用するが、都市部のようにICカード一枚でどこでも利用できるようにして欲しい。療育手帳を提示しなくても障害者割引を利用出来るようになればありがたい。
- 資料では障害者用トイレが増えているが、ベビーシートしかなく体が大きくなった障害児達がおむつ替えができなくて困っている。ベッドが付いているトイレがどれだけ増えているかなど細かいところまでもっていけると、誰もが使いやすいトイレになっているとわかりやすい。
- 金沢駅で多目的トイレの便座横に音声案内がついた。（視覚障害者にとって）トイレの多機能化が進んで便座まで行くのが障害物レースのようにになっている。手洗いとおストメイトトイレの便座の区別がつかない。音声案内装置の有用性が高まっている。オストメイト装置ひとつにしてもそれを回避するため音声案内装置は大変有効。
- せっかく4県が様々な取組をしているので、地域間格差がどういう背景で出ているのか、それぞれ県の得意分野とか、他県の情報を入れながらといった部分もある。
- 「心の病」側から、バスに乗ったときに帽子をかぶったほうが安定感があるとか、なかったら大変苦しいとかそんな様子がある。狭くて圧迫感のあるトイレも残っている。広さ高さに気をつけて整備して欲しい。バスの中など心に圧迫を感じる環境がまだまだあるので、そういうところも解消していければいいと思う。
- 一昨年の連絡会議で長野駅のバリアフリー状況の点検をしたが、その時に新幹線改札口からエレベーター（長野市管轄）までの間に点字ブロックが設置されていなかった。このような状況だと視覚障害者はエレベーターを使えないので気になって調べたところ、長野市の回答は点字ブロックによる誘導の必要性があまり見受けられなかったとのこと。こういった状況が本当にいいのか分からなかったため、長野駅で起こっている問題を提起した。
- エレベーターは目の不自由な人が使うというような基本的な発想をお持ちいただければ整備にあたって誘導ブロックの話がでてくる。必要か必要でないかの前にエレベーターを利用するんだという基本的な理解があれば、チェックすることができるのではないかな。
- バスの中のつかまる手すりが分かりやすいように明るい色で色分けされているが、他にも事業者にも利用者にも工夫がまだまだある。UDタクシーを使っただけの改善点などアイデアがあればそれを販売店・メーカーへ伝えることで改善されていくかなと思う。
- 新幹線の切符を買うときに車いす席の空きを確認するが、確認から発券まで時間が掛かり、後日来てくださいということも今までに何度かあった。駅に行くことも大変なのでやりとりの円滑化をして欲しい。
- 車いす用駐車場は横から乗り込めるように幅は確保されているが、後ろが確保されていないことが多い。スロープ車は後ろから乗り込むものがほとんどだと思う。スロープ車に対応した車いす用駐車場の確保の仕方を検討していただきたい。
- 手話言語条例というのが全国に広がりつつあるので、公共交通事業者の方も手話を勉強して覚えていただきたい。
- 視覚と聴覚二つ重複している盲ろう者は、手話は見えないので触手話という方法になるが、そのあたりの人材のご協力もお願いしたい。